

震災記憶地図

—「防災教育」から「復興教育」教材へ

伊藤智章

1 「震災記憶地図」とは

震災記憶地図は、iPhone/iPad 向けのアプリケーションソフト（以下、アプリと略記）です。京都のART R コミュニケーションズ（株）が開発したアプリ、「ちずぶらり」シリーズの1つで、地形図や観光案内図、古地図や手書きの地図に至るまで、手元の端末上での閲覧とGPSによる現在地表示、Google Map 上での重ね合わせ、地図中にポイントの付与と写真や動画へのリンクの埋め込みができます（写真1）。

日本国際地図学会学校GIS教育専門部会（主査…筆者）では、このアプリの内容の充実を軸に、東北各地の地図の収集（二次利用許諾の申請）と、教材化に

向けたプロジェクトを本年3月から始めました。概要と今後の展望について紹介します。

2 絵地図のアップロードと閲覧

地図のアップロードは、インターネットにつながったパソコンがあれば簡単に行うことができます。インターネット上の各自治体サイトには、たくさんの観光案内図が公開されています。「この地図をアップして欲しい」という要望があれば、当会で許諾申請とアップロードを代行しますので、URLと一緒に連絡をいただければと思います。

図1は、「震災記憶地図」の操作画面です。右端に「Twitter ログイン」と書かれている場所をクリック



写真1 「震災記憶地図」操作例

【特徴】

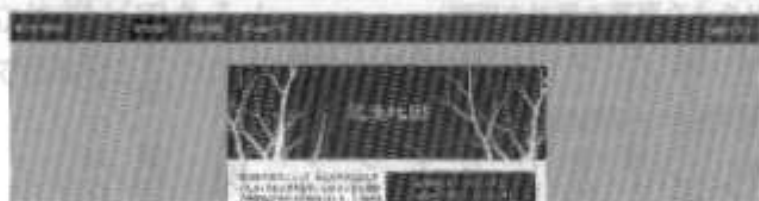


図1 「震災記憶地図」操作画面入り口

ブされる仕組みです。

図3は、地図上にピンを立てて写真と解説文を挿入しているところです。アプリの開発元では「ランドマークの編集」と呼んでいます。サンプルは、現在立ち入りが制限されている福島県飯舘村の観光案内図で、

し、Twitterのアカウントとパスワードを入力すると、地図のアップロード画面に移ります。地図の新規アップロードのほかに、アップロードされた地図上にピンを立てて、写真や動画を埋め込むこともできます。

図2は、アップロードした絵地図の画像の位置合わせをしている画面です。左側に絵地図が、右側にGoogle Mapが表示されますので、交差点や公共施設など、共通の目印となるものを10カ所程度指定して保存すると、絵地図が自動的に変形されてサーバー上にアッ



図2 地図の位置合わせ



図3 ランドマークの収集

表1 「震災記憶地図」から閲覧できる地図（2012年3月11日現在）

地図名	提供元
飯沼村観光ガイドマップ	福島県飯沼村観光課
富岡町観光案内図	福島県富岡町・同商工会
陸前高田市観光案内図	岩手県陸前高田市観光協会 有限会社タクミ印刷
石巻市観光案内図	石巻市観光協会 株式会社松弘堂
気仙沼市輪園	宮城三菱自動車
気仙沼ガイドマップ	宮城県気仙沼市
南相馬市観光案内図	福島県南相馬市観光課
大船渡ガイド	大船渡市観光協会
利府町観光マップ	宮城県利府町
七ヶ浜町観光パンフレット	宮城県七ヶ浜町

役場の許可をいただいでWebサイトの観光案内の記事を挿入しています。

一連の操作方法については、拙ブログ「いとちり」

内に解説記事がありますので、そちらを参照ください。

3 さまざまな「地図の記憶」

表1は、2012年3月11日現在、「震災記憶地図」から閲覧できる地図（許諾済みでアップロード待ちのものを含む）の一覧です。この



図4・5 拡大・縮小や現地比定が可能な「復興支援地図」と「記憶地図」(写真監修石巻市の例)

上：津波を到達した範囲を示す地形図(提供：古今書院「東日本大震災津波詳細地図」上巻「石巻」より)

下：石巻市街地の観光案内絵図(提供：石巻市観光協会)

ほかに、ATRコミュニケーションズ社が独自に許諾を取ってアップした衛星画像や地勢図などの地図が「復興支援地図」という別フォルダに格納されています。

また、古今書院の厚意により、発売中の「東日本大

震災津波詳細地図」から、一部の地図を提供していた
 だき、5万分の1地形図上に津波到達範囲を示した地
 図も搭載する予定です(図4・5)。

地図の利用許諾をお願いするにあたり、各自治体様
 や、制作された印刷会社様とやりとりするなかで、現

地の生の声とエピソードを伺うことができました。例えば、写真1の陸前高田市の観光絵図を作成された版元では、原図とデータが、納品先の観光協会や観光案内所では印刷された地図がすべて津波で流されてしまっている、唯一残ったのが外部のWebサーバーに残っている、唯この地図画像だけだったそうです。海水浴客でにぎわう高田の松原と夏祭りのようすが鮮やかに描かれています。

4 おわりに—「復興教育教材」化に向けて

「仏作って魂入れず」という諺があります。被災地の外で地図を加工してアップする現状は、「仏」を作った上で並べている段階です。現地の方々に使っていたかいて初めて「魂」がこもり、教材になるのではないかと思います。

Yahooをはじめとした各ポータルサイトでは、震災前後の写真をデジタルアーカイブするプロジェクトを行っています。これらのサイトにアップされている二次利用可能な写真や、「ここぞ」という観光名所、残しておきたいエピソードなど、是非とも各地からピ

ンとともに掲載していただければと思います。

いずれ端末を携えて、「現在地表示」の確認と、提供していただいた方々への挨拶を兼ねて東北を歩いてみたいと思います。遠くからできることは微力ではありますが、地図の力で復興に力を添えていければと思います。

[注]

(1) <http://eq.stroy.com/about>

検索サイトで「震災記憶地図」で検索すると最初に表示されます。2012・3・13確認

(2) <http://hochirback.seesaa.net/article/251860052.html>

検索サイトで「いとりり 震災記憶地図」で検索すると最初に表示されます。(2012・3・13確認)

(3) Yahoo 東日本大震災写真保存プロジェクト (<http://archive.sinsai.yahoo.co.jp/>) では、写真提供者が最初から、二次利用を許可した写真のみを選んで表示することができます。

いとうともあき・静岡県立吉原高等学校教諭 1973年静岡県生まれ。立命館大学大学院地理学専攻博士前期課程修了。著書「いとりり式 地理の授業にGIS」古今書院。GISや防災、地域振興と地理教育などに関する論文・コラム多数。

ホームページ「いとりりポータル」
<http://www.itochir.jp>